

「見捨てられた素材に命を与え、 環境との共生を」

杉やタマネギの皮など、本来は原料として使われない多様な素材から紙や工芸品を作り出す、熊本県水俣市の和紙職人・金刺潤平さん。見捨てられた素材に新たな命を吹き込むその技術は国内外で注目を集め、開発途上国の産業振興や環境保全の取り組みにも大きなヒントを与えている。



水俣病患者とともに 始めた和紙工房

熊本県水俣市郊外の山中に、風情ある一軒の古い工房が静かに佇む。ここは、環境に配慮した多様な素材から紙や工芸品を作り出すことで知られる和紙職人の金刺潤平さんが営む「水俣浮浪雲工房」。中には、紙をすく器具や製作途中の大きなランプシェードなどが所狭しと並び、

静岡県出身の金刺さんが水俣と和紙作りに出会ったのは今から25年ほど前。学生時代に環境問題に関心を持ったことで、胎児性水俣病患者とともに環境共生型の生活を実践するフリースクールが水俣市にあることを知り、そこへボランティアとして参加したのが始まりだった。そして、病気による障害で就職できず、社会から疎外されていた患者たちと交流を深め、彼らが働ける場所をつくりたいと水俣にとどまる決心をする。

彼らにできることはないかと、陶芸や木工の職人らに協力を依頼したが、「重い物を持ってない人には難しい」と断られる。そんなとき、作家の石牟礼道子さん1に「障害を持つ人にもできる」と紙すきを勧められ、1984年に工房を開設。患者3人を受け入れ、協力者の職人に指導を仰ぎながら和紙作りを始めた。当初は苦勞の連続だったが、「必ず長続きさせる」と約束して和紙作りを始めたメンバーたちは、決してあきらめず、根気よく技術を習得していった。

理屈で捨てられてしまふ、足元に放置されている素材に魂を吹き込め」

そんな強烈なメッセージが、金刺さんの和紙職人としての生き方を決定付ける。和紙の三大原料である楮、三桠、雁皮だけに頼らず、周りにあるさまざまな植物に着目する新しい和紙作りを始めたのだ。まず、荒れ果てた林から竹を取り、試行錯誤の末に和紙を作り出すことに成功。そのほか、イグサや杉の皮、葦、さらにタマネギの皮まで、本来なら廃棄されたり和紙の原料としては使われない素材に、紙として新しい命を与えることに没頭した。

「良質の材料を取り寄せて高級な紙を作るのもいいですが、職人としての仕事そのものの価値が失われているように思います。目の前にあるものを資源として見直し、そこから何かを作り出すことに意義を感じます」

90年代後半に入ると環境破壊や地球温暖化への問題意識が高まり、廃棄物を再利用する金刺さんの和紙や作品が注目され、国内外からワークショップや展示・指導の依頼が増え始めた。共に紙作りを始めた水俣病患者たちはその後、亡くなったり

病状が悪化したりして工房を離れたが、5〜10年もの年月を工房で勤め上げた。「肢体不自由だけでなく指先の感覚や臭覚にも障害を持つ彼らと仕事をしたことで、例えば原料を煮沸する際の燃料はガスではなく薪を使うこと、漂白剤は使わず、紙を板干しして紫外線で漂白させることなど、環境や人体に害がなくて、自然の力を最大限利用する術を教えてもらった」と今も感謝の気持ちで溢れている。

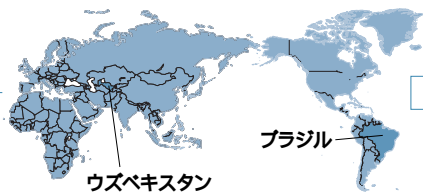
アマゾンで 紙すきを広める

2000年より、金刺さんはブラジルのアマゾン東部、パラ州地域の貧困層に紙すきの指導を開始した。世界有数の熱帯雨林を持つこの地域では、森林伐採による砂漠化や土壌の流出など、環境破壊が進んでいる。また地域住民は、富裕層や有力者たちの下で低賃金での農業や家政婦業などに従事するしかなかく、慢性的な貧困状態にある。そこで、現地のNGOとJICAが連携し、森林を守りながらできる産業の振興を通じて住民の生活向上・自立を図る支援を実施



同世代の胎児性水俣病患者とともに工房を始めたころの金刺さん(右)。「進路に悩み都会から流れてきて、当時は社会に居場所がないと感じていた。彼らとは似た者同士だったのかも知れない」と話す。それが「水俣浮浪雲工房」の名前の由来にもなった(写真:宮本成美)

1 水俣を拠点に創作活動を続けた作家。水俣病患者の苦しみを描写して反響を呼んだ代表作『苦海浄土 わが水俣病』(1969年)で知られる。



Kanazashi Junpei

和紙職人

金刺 潤平

挑戦者たち
Stories of
Challengers
Vol.32



アマゾン・パラ州地域の住民グループと。指導を続けるうち、質問される内容が高度になり、頼もしく感じたという。何人かのリーダーは来日し、金刺さんの工房で実習を受け、日本の紙文化にも触れた。

することになった。以前、JICAの研修で来日したNGOのメンバーが、金刺さんの講義を受けてその技術に関心を示し、協力を依頼。毎年、金刺さんが専門家として1カ月から半年ほど現地を訪問し、住民グループへの紙作り指導と紙を使った工芸品による産業振興支援を行っ

た。張り切って現地に飛んだ金刺さんだったが、初めは建物があるだけで、紙作りに必要な器材をすべて自ら用意しなければならなかったという。「業者に器材を発注してもなかなか届かず、毎日催促の電話をしていました。自分で道具を作

ることも多かったですね。紙作りの原料には、現地に自生するクラフと呼ばれる植物の葉を使った。乾燥地でも育ち、葉の部分だけを取って根を残すことで、持続的に利用できる。紙作りを実践してみせると、住民からは「身近なものからこんなに美しい紙ができるなんて！」と感激された。しかし、もともと生活の中で紙をほとんど使わないこの地域の人々に、技術を一から教えるのは並大抵の苦労ではなかった。また、彼らのものづくりに対する考え方の違いにも悩まされた。

「紙を10枚作れと言われれば、日本人なら失敗作を除いた出来の良いものを10枚作ろう」とし、その過程を通して技術を磨こうと努めるでしょう。しかし彼らは10枚作ればそれで終わり。出来不出来は関係なく、技術を習得しようという意識も乏しかったのです。それでも、住民との交流を深めながら環境保全の大切さを伝えるとともに、技術の向上に意欲を見せていた数少ないメンバーを重点的に、粘り強く指導を続けた。また、彼らを日本で行う研修に参加させ、日本のもの

水俣から伝えるメッセージ

今年、金刺さんは新たな試み

2 地方自治体や地域のNGO、大学、公益法人などが、これまでに培ってきた経験や技術を生かして企画する途上国への協力活動を、JICAが支援し、共同で実施するもの。

Kanazashi Junpei

かなざし・じゅんぺい 和紙職人。NPO法人「植物資源の力」事務局長。1959年静岡県出身。上智大学理工学部卒業後、日本青年奉仕協会の派遣ボランティアとして水俣市へ。84年、胎児性水俣病患者とともに「水俣浮浪雲工房」を開設。93年、イグサの製紙原料化により特許取得。98年、水俣市の環境マイスターに任命される。2000～07年、ブラジル・アマゾンで紙作りを指導。07年、経済産業省の「第2回ものづくり日本大賞」で優秀賞受賞。08年よりJICA草の根技術協力事業で、ウズベキスタンの紙作りと産業振興を支援。

を始める。ウズベキスタンの古都・サマルカンドで8世紀に興り、現在使われている世界中の紙の礎ともなった手すき紙「サマルカンドペーパー」の復元だ。ソビエト連邦時代に廃れてしまったこの紙をよみがえらせ、観光資源として活用するため、和紙とは一味違う紙作りの技術移転と民芸品の品質向上を支援する、JICAの草の根技術協力事業が8月に始まる。事業を実施する現地NGOをサポートする青年海外協力隊員が派遣され、今後、金刺さん自身も専門家として現地で指導に当たる。

金刺さんはなぜ、世界各地で紙すきの普及に努めるのだろうか。「和紙をはじめ日本の伝統工芸には、自然環境と共生してきた日本人の知恵と技が集約されています。紙すきを通じてそれらを伝えることで、持続可能な発展や環境保全に役立ててほしいのです。資源を売らねばならない国情があるのでしようが、途上国の資源が先進国に食い尽くさ

れるのを見るのは切ない。小さな一歩かもしれないが、まずは草の根から行動を起こしていきたい」。もちろん、今の自分を形成してくれた水俣市への恩返しも忘れない。06年に水俣の環境を考えるNPO法人「植物資源の力」を立ち上げ、環境調査や子どもたちへの環境学習を通じ、自分

たちの暮らしと地域の環境を見つめ直す活動を行っている。また07年には、地元の小学校の改築の際に、子どもの生活環境に適した壁紙を作りたいと、空気中の水分や化学物質を吸収・吸着できる、イグサを用いた高性能な壁紙を開発。地域の人々に喜ばれただけでなく、経済産業省が選定する「ものづくり日本大賞」の優秀賞も受賞した。根底には、かつて公害に苦しんだ水俣の地から、環境を大切に作る作品やメッセージを国内外に発信したり経験を伝えることで、負の歴史を価値のあるものに変えていきたいという思いがある。

眠っていた資源から和紙を生み出し、新たな命を与えてきた金刺さんの言葉は、大量消費社会への警鐘を鳴らすとともに、未来の地球環境を守るための取り組みに多くのヒントを示している。今、彼の言葉に耳を傾け、身近なところから行動に移していくことこそが、私たちに課せられた次世代への責任なのではないだろうか。



25年近くこの工房で紙をすいてきた金刺さん。「ヨーロッパに紙が普及するきっかけともなったサマルカンドペーパーの復元を通じ、町おこしに貢献したい」とウズベキスタンでの活動に意欲を見せる(写真:今岡昌子)



「植物資源の力」の活動で、周辺海域の環境調査を行う金刺さん(中央)

日本の伝統工芸の知恵と技を、持続可能な発展に役立ててほしい